

# 食物経口負荷試験について

食物アレルギーの診療の基本は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」です。

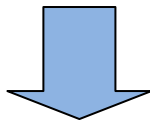
診断は血液検査や皮膚検査だけで確定するわけではありません。「食物経口負荷試験によって原因と考えられる食物を実際に食べてみて、症状が出るか確認すること」が基本です。（ただ、ある食物を食べた直後にアナフィラキシーを起こすなど、明らかに原因がわかる場合は行わないこともあります。）そして既に診断されている場合でも安全に食べられる量を確認するために行うこともあります。

## 1 目的

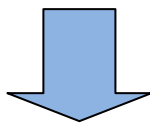
- (1) 食物アレルギーを診断するため
- (2) どこまで食べられるのか判断するため
  - ① 血液検査の数値が高く、実際に食べさせることが心配。
  - ② 以前「除去するように」と指導され、そのまま除去している。
  - ③ 入園前にどこまで食べられる状態か知りたい。
  - ④ 安全な量を負荷試験で確認して、少しずつ食べていくようにしたい。などの場合に行います。

## 2 食物経口負荷試験までの流れ

外来受診時、問診、診察、必要であれば血液検査、皮膚検査を行います。次に、日程や外来で行うか日帰り入院で行うか、対象の（食べてみる）食品とその量などについて決定します。



負荷試験はお子さんの体調の良い日に行います。体調が悪いときは、延期・中止しますので、前日までに（当日であれば9時まで）、小児科外来にご連絡ください。



検査 2 日前から抗アレルギー剤、ステロイド剤などの薬は（飲み薬も塗り薬も）中止してください。試験は、食品を食べて症状がでるか確認するものですので、これらの薬を使用していると症状が出ることを防いでしまうことがあるためです。もし使用してしまった場合は、病院に問い合わせし確認してください。

### 3 検査当日

#### （1） 日帰り入院の場合

- ① 朝9時から小児科外来で、体調不良でないか診察します。
- ② 病棟に移動し、検査開始。
- ③ 事前に決まっている負荷食品を、数回に分け、30～40分間隔で、決められた量食べていきます。
- ④ 担当医、看護師と一緒に慎重に症状を確認しながら負荷試験を行います。
- ⑤ 負荷試験中、症状が現れた場合は、観察時間延長、もしくは試験中止とし治療します。
- ⑥ 昼食はアレルギー除去食を準備しております。検査の進み具合により、12時よりも遅れることがあります。
- ⑦ 終了後、担当医にて負荷試験の結果説明と退院後の指導をさせていただきます。
- ⑧ 退院時間は、個々の症状と進行具合により時間が前後しますが、遅れて症状が出てきた時のために、最後に食品を摂取してから最低でも2～4時間経過観察を行います。特に強い症状が出ない場合は16時前後に退院することが多いです。
- ⑨ 試験で強い症状が誘発され、夕方まで改善しない場合は一泊入院を継続していただいた方がよいこともあります。念のため一泊するための準備もご用意ください。
- ⑩ 負荷試験後、次の外来受診の際に、自宅での食べた時の様子などを聞かせていただき、今後の方針をお話します。

#### （2） 外来での負荷試験

基本的には日帰り入院の場合と同じです。異なる点は、以下のとおりです。

- ① 13時頃から小児科外来で、体調不良でないか診察し、検査開始。
- ② 負荷食品を、1、2回に分け、30～40分間隔で、食べていきます。入院での負荷試験に比べ、時間も短いので食べる回数は1回、もしくは2回になります。

- ③ 帰宅時間は、特に強い症状が出ない場合は17時前後に終了することが多いです。
- ④ 日帰り入院と同じですが、試験で強い症状が誘発され、17時まで改善しない場合は一泊入院していただいた方が良いこともあります。

担当 小児科部長 中農 昌子